

まっぼく

発行所 社会福祉法人 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター
 ・療養介護事業所・医療型障害児入所施設 アルトン
 ・障害者支援施設 久里双水園
 ・児童発達支援センター まっぼく教室
 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806
 TEL 0955-70-3580 FAX 0955-78-0683
<http://www.saganet.ne.jp/ssgk/>
 ・糸島こどもとおとなのクリニック
 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63番
 TEL 092-327-0073 FAX 092-327-0361
 ・児童心理治療施設 好学舎
 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1
 TEL 0955-78-1123 FAX 0955-78-3001

コロナ禍に思うこと

総看護師長 中野 みどり

2019年中国武漢で報告された原因不明の肺炎は新たなコロナウイルスが原因であると判明し、テレビなどの報道では拡大の早さ、強さ、感染者宅には扉を封鎖される映像、駅が封鎖されている映像等、今まで見たことのないショッキングな様子が報じられた。その時は「あら、大変ね。」とまるで他人事、まさかこの様に長期になり、自分たちの身に迫るとは思いもしなかった。あつという間に世界中で感染者が確認され、日本、九州にも確認されるようになった。これまで当たり前でできていた外出や旅行、会食、登校や出勤さえも制限され、今までの生活様式が一変し、「密を避ける」を合言葉に出来るだけ人と会わない生活が推奨されるようになった。街やスーパーからは人影がなくなり、自宅にこもりつぎりの生活が続くようになった。

マスクや衛生用品が不足し、ドラッグストアやスーパーにはマスクを求める人の大行列。センターでもキッチンペーパーでマスク作り、手指消毒も入荷量が少なくない、ハイター水で手指消毒を行った。利用者の生活も制限を余儀なくされ、面会制限、行事の自粛、病棟のユニット化、感染対策の強化、職員も外食の自粛、行動制限、体温37度以上は上司に報告など、病棟にコロナを入れない、利用者様を守るという気持ちでコロナ対策に取り組んできた。コロナ禍の中、少しでも利用者様に楽しんでもらいたい、寂しさ、不安を少なくしたいという思いで職員が試行錯誤しながら、病棟内行事、レクリエーションに取り組んでいる。

3年間にも及ぶコロナ禍での生活の中で、私たちの生活様式も大きく変わってきた。一人で過ごすことが当たり前になり、人と会うのもズームを使用したリモート。不自由さを感じることはもちろんあるが、何よりコロナ感染を起さないという気持ちで取り組み、普通の生活として受け入れていく。だが一方でテレビ等の報道では集団で騒ぐ人や飲み会を行う者といった自粛生活を我慢できない人々も少数ではあるが一定数いるようである。そのような様々なコロナ禍の生活の中で自分が一番強く意識したことは「一人にうつさない」である。利用者の中には基礎疾患を持った方がたくさん生活されており、一度感染が起せば命の危険に繋がってしまう。周囲の人への思いやりや心配りが自粛生活を支えてきたといえる。

第2波、第3波と感染者が増加していく中、今度こそいよいよ入所者に感染者がでると幾度となく思ったが、今のところ職員数名の感染者にとどまっている。職員や家族の努力の賜物である。この場を借りてお礼を言いたい。

いつまで続く？コロナ禍以前に戻れる？と思いつつ、いまだコロナは収束していない。今与えられた状況の中で工夫し、出来るだけ楽しみながら、正しい情報をもとに感染対策を行い、周囲への気配りや思いやりを持ってコロナ禍の生活を送っていききたい。

3月1日(月)～3日(水)

久里双水園



寒さ残る3月3日、華やかな雛飾りを前にひな祭り会を開催いたしました。動く雛飾りが回ってくるのを今か今かと待ちわびておられました。満面の笑顔で記念撮影をし、手作りの甘酒ムースで楽しいひな祭り会を過ごされました。

まつぼっくり教室



3月2・3日にひなまつり会を行いました。ブラックシアターでは部屋を暗くしてお雛様をはじめ三人官女等を子どもたちと一緒に飾り付けました。最後は「うれしいひなまつり」を歌い子どもたちの健やかな成長を祈りました。

アルトンあかり



ひなまつり会をしました。「うれしいひなまつり」のうたを歌いながら顔はめパネルでお内裏様やお雛様になりきりました。嫌がる子どもや自分でパネルを持ち顔を近づける子もいましたが行事を楽しむことができました。

卒園式

3月21日(月)

まつぼっくり教室



第20回まつぼっくり教室・アルトンあかりの卒園式を行いました。卒園証書授与では名前が呼ばれると返事をして証書を受ける事ができました。各家族から1名の保護者の方が参加され、卒園児16名・修了児1名を送り出しました。

アルトンあかり



まつぼっくり・あかり卒園式を行いました。卒園証書授与では名前を呼ばれると返事をして受け取る子、緊張している子もいました。保護者の方は我が子の成長に涙を流したり、喜んでい姿が見られました。

日帰り旅行

5月26日(木)

アルトン



アルトン入所者4名と職員4名で日帰り旅行に出かけました。心配した天気は崩れる事なく、曇り空のままで過ごせました。目的地の四季の丘公園では前日の雨で濡れた新緑が風に揺れ、ツツジの花が綺麗なピンク色で咲いていました。ゆっくりと公園内を散策し、気持ち良く気分転換が出来ました。

開園記念祭

3月29日(火)

アルトン



アルトンにて、開園記念パーティーが行われ、今までの20年間を振り返る映像をスクリーンに写し出し、利用者の方々に楽しんで頂きました。懐かしい映像が大画面に写し出されると中には涙ぐまれる方もおられ、それぞれに思い出されているようでした。又、この日の為に用意されたくす玉を代表者2名に割って頂くと歓声を上げて皆さん大変喜ばれていました。

久里双水園



開設当初からの写真を会場に流し、「わあ、懐かしい!」と昔を思い出し、笑ったり涙する方もおられました。職員の出し物では、マツケンならぬ、笠ケンの登場で大いに湧き、利用者様からのアンコール喝采で何度も踊り、盛り上がりました。昔話に花を咲かせながら、豪華なお弁当や給食を食べられました。

お茶会

3月1日(火)～3日(木)

生活介護



生活介護では、3月1～3日に毎年恒例のお茶会を行いました。利用者の方が自ら茶せんを使用し楽しそうにお茶を立てられていました。自分で立てたお抹茶は格別のように、皆さんとても美味しく飲まれていました。



「糸島こどもとおとなのクリニック便り」



糸島こどもとおとなのクリニック
院長

藤井 敏男



「糸島こどもとおとなのクリニック」は2017年の開設で、運営母体は佐賀整肢学園です。福岡から見ると、なぜ糸島市に“佐賀”の名前の施設？、と不思議にえます。

佐賀整肢学園は1960年に佐賀市金立に九州大学整形外科と佐賀新聞社の協力で開設された肢体不自由児施設です。園長空席のため運営が難しくなった1981年に原寛道先生が九州大学整形外科教室から園長として赴任し、再建されました。その後、原先生は重心、療護、特養と、障害の種別は関係なく、こどもから高齢者まで幅広く佐賀県の福祉のために力を注いでこられる中、唐津のこども達が片道1時間かけて金立の整肢学園までリハ通院で苦労しているのを、2002年に「佐賀整肢学園からつ医療福祉センター」を創設したところ、からつセンターに糸島のこども達が多数通園し始めました。

それは、糸島近隣の障がい児通園訓練施設として姪浜駅西に福岡市立西部療育センターが2002年に開設されたものの、その利用者は福岡市民に限られており、糸島のこどもたちは西区に住居を借りて住民票を移さないとリハビリが受けられなかったからです。この糸島のこどもたちの重たい負担を憂えた松月糸島市会議員が、2016年にからつセンター長の原先生に「障がいを持つこども達がリハビリを受けられる場所を糸島地区に作ってほしい」と懇請され、県域を超えて当院が開設されました。

本来、糸島は福岡県がカバーすべき地区ですが、残念ながら福岡県は障がい児の福祉に関してあまり積極的ではありません。当院開設後、福岡県はまだカバーできていない筑紫地区にも佐賀整肢学園の通園センターを作ってもらいたいと私に仲介を依頼してきたのですが、原先生は筑紫地区は佐賀との関連性が薄いと断られたことがあります。

私がこども病院時代からかかわっている福岡市立療育センターの令和2年度年報では、西部療育センター(姪浜)の相談部門受診数516名の内400名が発達障がい児です。数が多いため、福岡市では窓口相談申し込み後、専門医の診断を受けるまで3か月、診断後リハ開始まで3か月と、訓練スタートまで6ヶ月まつ上に、リハビリも月1回の通所と少ない現状です。

幼児期は身心共に急速に成長・発達するので、発達性協調障がい(Developmental Coordination

Disorder, DCD)のこどもたちのリハビリは早期開始が大切です。この点、糸島市は人口がそれほど多くない上に、当院は訓練士が多いので、こどもたちは週1回の通所リハを受けていますから、現状では糸島のこどもたちの方が福岡のこども達より恵まれていると感じます。今は午前中のこどものリハ枠には空きがあるので、福岡のこども達に幸せをおすそ分けしたいと考えています。幸い、当院は社会福祉法人なので、自治体直轄のセンターと異なり患者さんの地域制限がなく福岡市のこども達も自由に受診できる利点があります。

こども病院での肢体不自由児に対するリハビリは、関節拘縮のストレッチや筋トレ、立位・歩行訓練などが主で、中には“痛い”とか、“きつい”と言ってリハを嫌がる子もいて、その子たちのモチベーションを上げるのに苦労しました。例えば、脚延長をしているこども達には、なるべく複数の仲間を作って一緒に行動させ、当時の唐人町のこども病院からドーム球場の入り口まで歩けるようになったら退院、などと、工夫していました。一方、当院のDCDのリハビリはいわゆる“遊び”を通して協調運動のトレーニングをするので、明るくて楽しい雰囲気です。こども達はリハビリを“治療”ではなく、“遊び”と受け取っているの、受け付けが終わるとみんな嬉々として担当訓練士がいる2階に急いで行きます。リハ内容もまるで保育園や幼稚園の遊戯のようです。集団ではなく、こども一人一人に対して訓練士が1対1で行う濃密なリハビリを通して、こどもたちは自分の身体をスムーズに動かす訓練だけでなく、訓練士の表情や動作を読み取る作業を通じて相手を理解する非言語コミュニケーションの発達が進められていきます。

佐賀整肢学園のせつかくの厚意で糸島に開設された小児リハの重要な拠点である当院です。開設時の原点に返って障がいを持つこどもたちの幸せのためにもっとスタッフ皆で頑張りましょう。また健全な経営ができるsustainableな施設として存続するために、周辺地域の高齢者の健康増進へ一層の協力を心がけていきたいと思っています。

ラーメン会 5月3日(火)

好学舎



児童の自治会でラーメンを食べたいという意見があがり、子どもたちに提供しました。麺が伸びないように工夫し、みんなそわそわしながら「いつ来る?」「いい匂い」と楽しみに自分の番を待っていました。ラーメンが来るとネギなどの薬味をトッピングして「いただきます!」と勢よく食べ、汁まで完食でした。「また、食べたい」と好評でした。



ひなまつり

好学舎



ひな祭りのイベントとして抹茶点でしてどら焼きと一緒に食べました。初めて抹茶を点てる児童は職員に点て方を聞いたり、ユーチューブで動画を見たりして茶せんを使って頑張って抹茶を点てていました。抹茶を始めて飲んで「苦い!」「でも美味しい!」と言いながらおいしそうな表情で、どら焼きも好評でした。



アルトン



アルトンではひな祭り会を行いました。最初にひな祭りの由来を聞かれた後、皆で「うれしいひな祭り」を合唱し、利用者の方々にマイクを向けると大きな声で歌われていました。又、ひな祭りに関するクイズでも積極的に答えられる等、嬉しそうな笑顔がたくさん見られました。その後のお茶会では抹茶や甘酒、ひなあられも振る舞われ、終始、和やかな雰囲気の中で会が進み、最後に職員手作りのひな壇とさげもんの前で写真撮影をされ、その日、1日を楽しく過ごされていました。

お花見会

3月31日(木)

久里双水園



桜が満開に咲き誇るこの頃、久里双水園では花見会が開催されました。晴天の中、花を見上げながらのパーベキューに、笑顔がこぼれておられました。花を一生懸命見上げる方、花よりパーベキューに夢中になられる方……。それぞれに春の訪れを感じ楽しい時間となりました。

令和4年度
新規採用職員・正職員登用職員紹介

.....新規採用者
.....正職登用者

 アルトン 山下 祐果 看護師	 アルトン 吉村 三恵美 准看護師	 久里双水園 チーレウー 生活支援員	 まつぼっくり放課後 山口 沙樹 保育士	 総務課 江口 幸雄 アシスタント
 好学舎 福島 渉 心理士	 好学舎 青木 詩織 児童指導員	 好学舎 高尾 優輝 児童指導員	 好学舎 草場 菜々美 児童指導員	 糸島こどもとおとなのクリニック 田中 望 児童指導員

卒園式(糸島)

3月28日(月)

祝ご卒園
おめでとうございます

第2回卒園式を執り行いました。今回も去年同様、放課後等デイサービスの利用児がスタッフと一緒に準備を進め、お部屋を飾ってくれました。式本番では緊張した面持ちで入場し、修了証書を受け取ることができました。放課後等デイサービスのお兄さん、お姉さんからの挨拶と花束贈呈のあと、スタッフが作成したビデオレターを鑑賞しました。たくさんのお友だちやスタッフに囲まれ、笑顔があふれる卒園式になりました。



令和3年度決算報告

令和3年度は、からつ医療福祉センター、好学会においては、新型コロナウイルス感染拡大の中、ほぼ前年度なみの収益を確保できた。しかし、短期入所利用者の減が収益の悪化を招いている。規制緩和等、社会情勢の変化に乗り遅れることなく対応する為、当センターでしか行えないサービスを地域にアピールする必要がある。そのためには、通院しやすい外来棟づくり、言語訓練室の充実、在宅訪問診療の充実、整形外科や小児科外来診療を地域に開放するなど、より地域医療に力を入れる計画である。また、人所利用者の獲得も重要な視点であり、行先のない多動児の為の病棟再整備も必要で、そのためには人材の安定的確保対策として、外国人留学生の受入は、今後とも必要不可欠と思われる。また、好学会においても入所棟のユニット化等、ハード面の再整備が必要である。

糸島クリニックにおいては、感染症の流行等で、日々の外来患者数の変動が大きく、苦戦が続いている。しかし、近隣において特別支援学校の開校も控えており、地域から求められる様態を見極めつつ、医療と福祉両輪の連携を深め、収益の黒字化を目指し活動していきたい。

総務部副部長 富永 創

からつ医療福祉センター、在宅事業部、糸島子どもとおとなのクリニック（公益）、糸島子どもとおとなのクリニック（福祉）、好学会

【事業活動収支計算書】 令和3年4月1日～令和4年3月31日 単位：千円

科目	金額
サービス活動収益計(1)	1,907,986
サービス活動費用計(2)	1,757,803
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	150,178
サービス活動外収益計(4)	10,012
サービス活動外費用計(5)	0
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	10,012
経常増減差額(7)=(3)+(6)	160,190
特別収益計(8)	2,741
特別費用計(9)	20,901
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△18,160
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	142,030
前期繰越活動増減差額(12)	2,840,260
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	2,982,290
基本金取崩額(14)	0
その他の積立金取崩額(15)	0
その他の積立金積立額(16)	243,500
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)+(16)	2,738,790

【貸借対照表】

令和4年3月31日

単位：千円

借方	貸方
資産の部	負債の部
流動資産	603,068
固定資産	4,489,563
基本財産	3,051,236
その他の固定資産	1,438,317
(積立資産の合計)	1,062,541
流動負債	152,688
固定負債	90,222
負債の部合計	242,910
	純資産の部
	基本金
	0
	国庫補助金特別積立金
	1,048,380
	その他積立金
	1,062,541
	次期繰越活動増減差額
	2,738,790
	純資産の部合計
	4,849,711
資産の部合計	5,092,621
	負債及び純資産の部合計
	5,092,621

●善意

3月18日 J A 佐賀県女性組織協議会様

4月29日 東島 雄二様

●採用

4月27日 永石 達也様

●退職

3月31日 堀田 妙子 准看護師

●採用

4月1日 山下 祐果 看護師

●採用

4月1日 吉村三恵美 准看護師

●採用

4月1日 池田 文雄 生活支援員

●採用

4月1日 ランランウシ アシスタント

●採用

5月5日 伊藤裕美子 生活支援員

●採用

5月25日 奥村 卓美 アシスタント

●採用

5月13日 トウザーチョ アシスタント

●採用

4月1日 福島 渉 心理士

●採用

4月1日 青木 詩織 児童指導員

●採用

4月1日 鷹尾 優輝 児童指導員

●採用

4月1日 草場菜々美 児童指導員

●採用

4月1日 三塩 恵理 生活支援員

●採用

4月1日 田中 望 児童指導員

●採用

4月18日 岩坪沙桜李 保育士

●採用

3月31日 堀田 妙子 准看護師

●採用

3月31日 神谷 知彦 言語聴覚士

●採用

3月31日 有尾奈保子 生活支援員

●採用

3月31日 松田美千代 生活支援員

●採用

3月31日 吉田 美紀 生活支援員

●採用

3月31日 井本 理恵 生活支援員

●採用

3月31日 北川 クミ 生活支援員

●採用

3月31日 宮本 綾乃 生活支援員

●採用

3月31日 古川 彩 保育士

●採用

3月31日 山口 由実 職業指導員

●採用

3月31日 岩永 鮎美 一般事務員

●見学

4月30日 佐藤 摩紀 作業療法士

●見学

5月31日 奥村 卓美 生活支援員

●見学

3月31日 木下 悠 児童指導員

●見学

4月30日 永松 岳 公認心理師

●見学

5月31日 坂本 阿弓 保育士

●見学

4月30日 田中 絢香 児童指導員

●見学

3月31日 佐伯 里奈 保育士

●見学

4月30日 小田原聡美 医療事務員

●見学

唐津看護専門学校様

●見学

佐賀女子短期大学地域みらい学科様



●編集後記

梅雨の季節となりました。新型コロナウイルスによる自粛生活もまだ続くようです。皆さん、もう少しの辛抱です。健康に気を付けて快適に過ごしましょう!!

※本誌掲載の写真は、全て、ご本人及び、ご家族の許可を得て掲載しております。